

事業概要	<ul style="list-style-type: none">紙製品の製造・販売と付帯する事業Web サービス事業名刺・はがき作成システムおよびプリンター等の開発と販売オリジナル文具の製造・販売と付帯する事業フルフィルメント事業
部署	マーケティング部門 マーケティング G
所在地	〒104-0041 東京都中央区新富 2-4-7
連絡先	(電話番号)03-5543-6395 (E-mail)kyosuke-kanda@yamazakura.co.jp
環境省ローカルSDGsを通じて、実現したい社会像	<p>実現したい社会像は紙製品の企画・販売を通して地域社会を発展させるということです。日本の製紙産業は世界的に高い評価を受けています。例えば長い伝統を持つ和紙技術は 2014 年に「和紙 日本の手漉(てすき)和紙技術」が無形世界遺産に登録されました。洋紙の分野でも中小の製紙会社が数多く存在し、大手製紙会社とは一線を画す、独自の技術を有しています。製紙産業は各地の基幹産業の1つになっています。</p> <p>しかし製紙産業は紙離れによる売上高の減少により、急速に衰退しています。製紙産業が衰退することは地域社会の衰退に直結します。この状況をローカルSDGsの活用により変革したいと考えています。</p> <p>製紙産業は売上減少に直面していますが、需要が回復する可能性は充分にあります。今後、紙という素材自体が全く使用されなくなるということはありません。むしろ近年の脱プラスチックの動きにより持続的な素材として注目を集めています。現在の製紙産業の問題点は従来のモノづくりにこだわりを持ちすぎて、ユーザーのニーズにマッチしていないことにあります。またプロモーションを積極的に行っている会社は多くありません。この傾向は和紙や中小の洋紙製紙会社で顕著に見受けられます。そこで弊社のマーケティング力(商品企画・プロモーション・営業等)を用いて各地の製紙産業の発展に寄与したいと考えています。具体的には製紙会社と協業で現在のユーザーニーズに適合した商品を開発し、プロモーションを行います。それにより各地の製紙産業が活気を取り戻し、地域社会の発展にも繋がります。この取り組みを実現させるために地域SDGsを活用したいと考えています。ローカルSDGsのフレームワークを通して各地の製紙産業とつながり、協業体制の実現を目指します。このような製紙産業の継続・発展を通して、地域社会に活力を与えることが弊社の実現したい社会像です。</p>

ローカルSDGsの実現に貢献できるソリューション	分野	その他(素材開発)
	<p>ユーザーのニーズに沿った紙の開発から付帯するプロモーション・販売を行うことができます。SDGsの浸透に伴い、ユーザーの紙製品(名刺や封筒などの事務用品)に対するニーズは大きく変化しています。具体的には環境や社会に配慮したエシカルな素材を用いた製品(森林認証紙や再生紙など)の需要が高まっています。また脱プラスチックの潮流から紙製品を代替として採用するという動向もあります。</p> <p>このような急激に変化するユーザーニーズに適応した新製品の開発ができます。その成功事例として One Planet Paper®(バナナペーパー)があります。この紙はアフリカ・ザンビアのオーガニックバナナの茎の繊維を原材料として、越前和紙の技術を活用して生産しています。SDGsの17の目標すべてに対応していて、日本初のフェアトレード認証(WFTO)を取得している紙です。弊社はこの紙の普及を目指すOne Planet Paper®協議会の一員として、紙の生産から販売まで担っています。環境・社会・経済にやさしい紙で非常に注目を集めています。(株)ラッシュジャパンや三井倉庫(株)などの民間企業、東京藝術大学や青山学院大学などの学校法人、消費者庁などの官公庁、様々な業界で採用事例があります。</p> <p>このようにバナナペーパーはSDGs時代のユーザーニーズに合致しているため、売上を伸ばしていますが、生産は越前和紙の技術を活用し、ユーザーには品質の高さを評価されています。バナナペーパーの事例から分かるように和紙の技術を活用しながらも従来の製品を生産するのではなく、ユーザーのニーズに合致した製品を生産することが重要です。それにより、新たな需要を喚起し、製紙産業に活力を与えることができます。弊社では1990年の再生紙名刺の発売を皮切りに業界に先駆けてエシカル製品の企画・販売を行っています。バナナペーパーだけでなくタンザニア産のオーガニックコットンを用いた「タンザニアコットン紙」や生産時の電力をグリーン電力(太陽光)で行った「グリーン電力紙」など様々なエシカルペーパーの企画・販売の実績があります。製紙の技術と弊社の企画・販売力を合わせることでSDGs時代のニーズに沿った新たなエシカル和紙を実現させることができると考えています。</p>	
	URL	https://www.yamazakura.co.jp/csv/community/bananapaper
上記ソリューションを提供できる地域について	全国	

自者の特徴	<p>環境にも社会にもやさしいエシカル製品の開発に強みを持っています。弊社は1990年の再生紙を用いた名刺を嚆矢として、間伐材紙や森林認証紙・One Planet Paper®(バナナペーパー)など様々なエシカル製品の企画・販売を行ってきました。「選択してもエシカル 選択しなくてもエシカル」というスローガンを掲げて、2025年までに規格品の95%をエシカル製品に切り替えることを目標としています。これはユーザーが弊社の製品を購入していただければ特に意識せず、エシカル製品が供給されるスキームの構築を意図しています。森林資源の恩恵を受けて事業運営している紙製品メーカーの社会的責任として目標達成を目指しています。この活動が評価されて2018年に第6回グッドライフアワードで「サステナブル・ビジネス賞」を受賞しました。また2017年には経済産業省より「地域未来牽引企業(東京)」にも選定されています。</p>
SDGs経営に向けた自者の課題や悩み	<p>一つ目は社内でのSDGsの推進に課題があると考えています。SDGsについては社内研修などを通して社員の理解度は高まっています。しかし知識として理解したSDGsを実際の業務に落とし込んで、業務変革を行うという行動の部分が足りていません。現状は経営層やSDGsを推進する旗振り役の部署から指示があったから業務変革を行うという受動的な対応が多いです。各部門がSDGsというツールを使って主体的に業務を変革していくという体制を構築したいと考えていますが、まだその領域までは達していません。</p> <p>二つ目はお客様を含む企業の認識ギャップです。大手企業は経団連の Society5.0 にもあるように、調達方針やサステナブルスローガン、マテリアリティを掲げ、積極的に取り組んでいる企業が増加しています。一方で中小企業に関しては売上向上や他社との差別化などの具体的なイメージを得難く、推進していない会社が多数です。弊社が所属する紙、印刷業界においても同様の傾向がみられます。弊社主催のセミナーを実施するなど、この認識ギャップを解消するために施策を行っていますが、十分ではありません。この認識を変えるべく、さらなるプロモーションをおこなっていくことが、今後の課題として模索中です。</p> <p>以上が弊社の課題と悩みです。</p>

SDGsに貢献できる エシカル[※]製品をご提供しています

※ エシカルとは「倫理的な」「道徳的な」という意味です。近年、使用することで環境配慮・社会貢献ができるエシカル製品が注目を集めています。

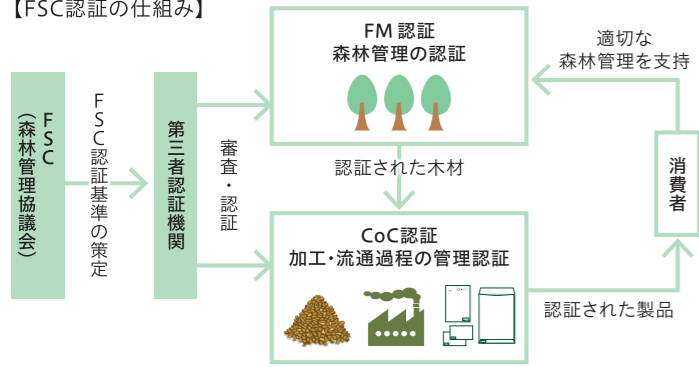


FSC認証紙

世界の森林保全に貢献

FSC認証制度とは、森林を適切に管理し、環境や地域社会に配慮しているかどうかを、第三者認証による徹底したシステムで評価し、認証する仕組みです。認証紙の利用促進は、適切な森林管理を行う林業者を支援し、森林保全に貢献することにつながります。FSCの認証紙は欧州、北米、中南米、アジア、アフリカなど全世界にわたっているため、世界に通用するグローバルな環境PRが可能です。

【FSC認証の仕組み】



【山櫻の製品】名刺、封筒、はがき、カード等[※]

※ 品名にCoCと付いている製品はすべてFSC認証製品です。



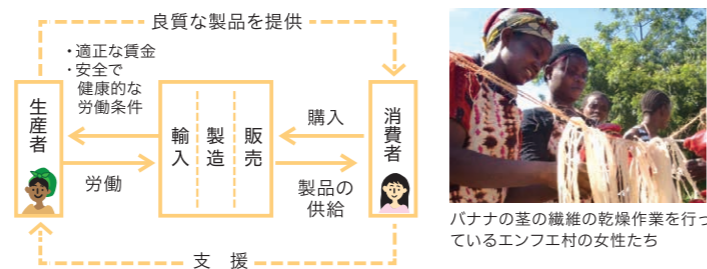
バナナペーパー

人にも環境にもやさしい

フェアトレード製品

フェアトレードは、製品を作る人の健康と経済、環境保全を支援する「公平な貿易」を実施する仕組みです。バナナ、カカオ、コーヒー、綿花などに加えて、近年では紙の生産も行われています。フェアトレードペーパーは、アフリカのザンビアで廃棄されるだけだったオーガニックバナナの茎から繊維を取り出し、日本の和紙の技術を用いて作られました。生産地の環境と貧困の問題に同時にアプローチする紙として、いま注目を集めています。

【フェアトレードの仕組みイメージ図】



【山櫻の製品】名刺、封筒、賞状、カット紙



東北コットンCoC

津波被害からの復興を支援

「東北コットンプロジェクト」で栽培された綿(コットン)の茎から採った繊維と森林認証パルプを原料に生産された紙です。「東北コットンプロジェクト」とは東日本大震災の津波被害により稲作等が困難になった農地で塩に強いとされる綿を栽培し、さらに紡績、商品化、販売まで一貫して行うことで東北での新規農業形態を支援する共同プロジェクトです。綿の茎を使用したこの名刺は、栽培農家による復興への挑戦を支援しています。

〈東北コットンプロジェクトとは〉
東日本大震災の津波被害により稲作等が困難になった農地で綿を栽培し、さらに紡績、商品化、販売までを一貫して行うことで東北での新規農業形態を支援する共同プロジェクトです。



【山櫻の製品】名刺、封筒、カット紙

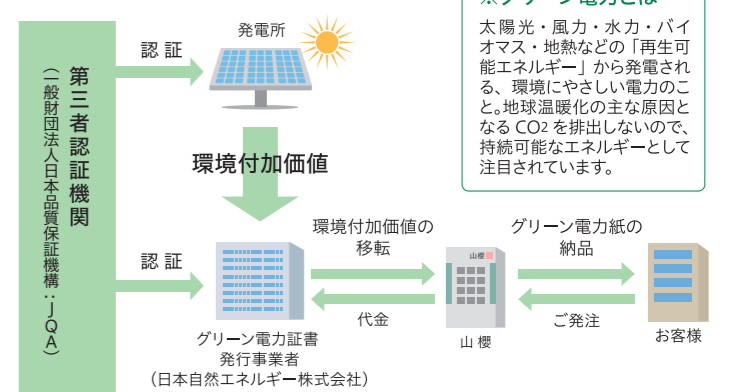


グリーン電力紙

地球温暖化対策に貢献

グリーン電力[※]を使用して生産された紙です。羽田空港の貨物ビル上屋の屋根に設置されたソーラーパネルで発電された太陽光電力を利用しています。グリーン電力紙を使用することで地球温暖化対策に取り組むことができます。

【グリーン電力紙をお届けするまでの流れ】



【山櫻の製品】名刺、賞状、はがき

※ 「さくらCoC」台紙を使用しています。



タンザニアコットン CoC

オーガニックコットンを使用して

持続可能な農業を支援

「bioReプロジェクト」から生まれたタンザニア産オーガニックコットンの落ち綿と、森林認証パルプを原料に生産された紙です。オーガニックコットンとは農薬や化学肥料を使用せずに有機農業で栽培された綿花です。有機農業は環境負荷を抑えるだけでなく、農家の自立支援や児童労働の禁止、フェアトレードなど包括的なアプローチで持続可能な農業の実現を目的として、全プロセスで第三者認証機関に検査・認証されています。

〈bioReプロジェクトとは〉
スイスのREMEI社が中心となり1991年からインド、1994年からタンザニアで始められたオーガニックコットン栽培のプロジェクトです。



写真提供 ©PANOCO TRADING CO., LTD./REMEI AG

【山櫻の製品】名刺、カット紙

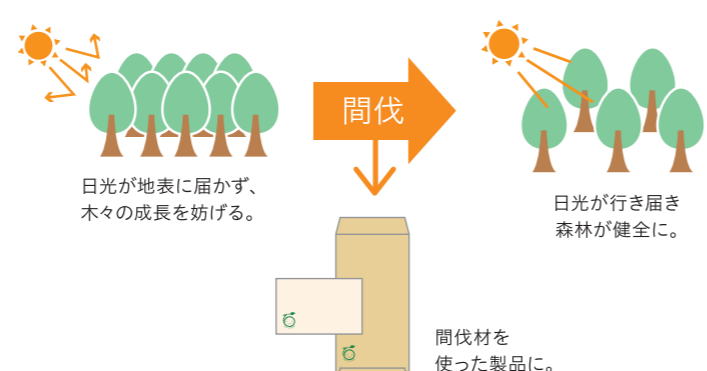


間伐材紙 / 国産材紙

地材地消で地域経済の活性化を応援

適切に間伐された森林は、太い幹としっかりとした枝葉によってCO2吸収量の拡大に貢献します。また、国産材(間伐材)の利用推進は適切な森林管理を行う地域経済への波及効果につながります。

【間伐材紙のイメージ図】



【山櫻の製品】間伐材紙：名刺、封筒、はがき
国産材紙：名刺(国産の木材/パルプ100%使用)



非木材紙

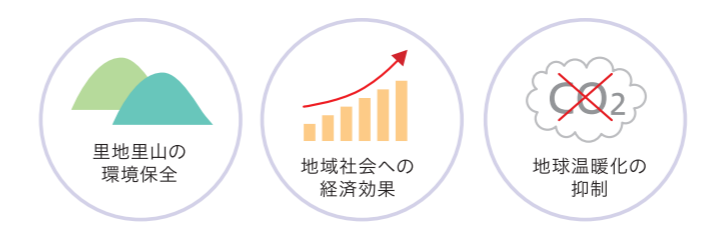
非木材紙の利用で

森林の過剰伐採を軽減

〔竹〕
強い繁殖力を持つ竹は周囲の里山や森林を侵食し、地すべりなどの災害を引き起こすとされています。竹の有効活用は、放置された竹林の問題解決につながります。

〔バガス〕
サトウキビから砂糖を絞ったあとの残りカスを用紙の原料に使用しています。

【竹を使う効果 イメージ図】



【山櫻の製品】竹：名刺、封筒 バガス：名刺



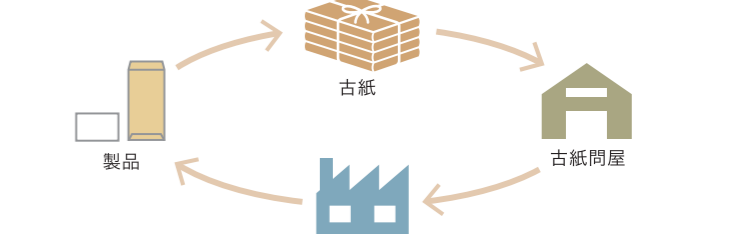
再生紙

紙のリサイクルで森林資源の節約に貢献

紙をリサイクルすることで、紙ごみが資源として甦り、森林資源の節約につながります。近年はボール紙(板紙)のほか、書籍や雑誌、印刷用紙などへの再生利用が進められています。エコマーク認定製品や、グリーン購入法[※]に適合した製品をご用意しております。

※グリーン購入法：国や独立行政法人などの機関が環境に配慮した製品(環境物品)を優先的に購入、また情報の提供によって、環境配慮型製品の需要拡大を目的とする制度。
※認定基準(封筒)：古紙/パルプ配合率40%以上であること他

【再生紙循環のイメージ図】



【山櫻の製品】名刺、封筒

